

1 組織概要

(1) 目的

調布市では、令和5年度を初年度とする新たな調布市総合計画の策定に向け、市を取り巻く環境の変化や多様化・複雑化する社会的な課題を的確に捉え、市内に事業所等を有する企業・大学等が有する知見やノウハウ等を生かしながら、市における課題解決に向けた検討を行う組織として、調布市総合計画策定産学官連携会議を設置した

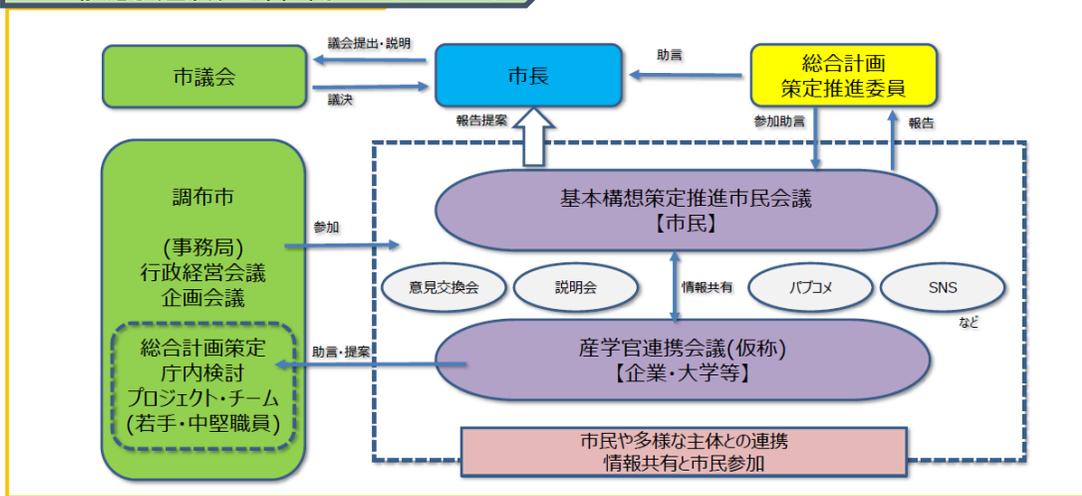
(2) 産学官連携会議委員

- ・ 調布市行政経営部
- ・ アフラック生命保険株式会社
- ・ 国立大学法人 電気通信大学
- ・ 特定非営利活動法人調布市地域情報化コンソーシアム
- ・ 京王電鉄株式会社
- ・ 東日本電信電話株式会社

(3) 令和3年度活動予定

- ・ 第1回 …… 令和3年 8月27日
- ・ 第2回 …… 令和3年11月4日
- ・ 第3回 …… 令和3年12月24日
- ・ 第4回 …… 令和4年 2月初旬
- ・ 第5回 …… 令和4年 3月下旬

2 検討組織と体制のイメージ



3 第2回会議の議論のまとめ（調布市の強み・弱み）

全般

生産年齢人口・総人口も増加している。多摩地区内でも増加率が高い	地域活動のリーダー不足。青年会議所との連携等も含め、人財を育成していく態勢が必要
災害時のフェーズフリーの取組	市役所全体の広報スキル・広報マインドの向上が必要
駅周辺について。世田谷区や杉並区は「住宅地」、府中・多摩センターなどは「事業所」に特化した感があるが、調布市は両面あってバランスの良い街	緑が多くて都心に近いというメリットをアピールできていなくて勿体ない
	「バランスの良いまち」が「インパクトがないまち」になっている恐れ

都市整備・環境関連

駅と商業施設が近接していて、コンパクトなまちづくりがなされている	空き家が多くある
ゴミのリサイクル率が高い	市の南北間の交通に難がある
ゼロカーボンシティ宣言をし、自治体として積極的に取り組んでいく姿勢	体育館などの公共施設が老朽化している
市の中に鉄道と幹線道路(高速道路含む)があり、交通の便が良い	旧甲州街道の歩道の狭さが課題
調布駅前広場の広さ、空の高さ。何でもできるスペース	ゼロカーボンについて、他自治体や市民へ見せていく姿が重要

文化・産業・観光関連

調布駅前の整備により、労働人口の増加も期待できる	各駅前について「面的な広がり」があるとよりよい
自社内で調布市に居住している社員が多く、プレミアム付商品券が好評。他市区と比較して周知が進んでいる	「調布の名産品」として広く知られているものが少ない
文化施設、会議室が市の中心地にあるため、コミュニティが組成しやすい	深大寺などの豊かな観光資源があるが、アピールが足りない
地域メディアが充実している。イベント情報を一元化できる仕組みがある	健康・福祉関係
事業所・企業を誘致する余地がある	東京都福祉保健局の資料によると、待機児童が多い(令和3年4月1日時点 46人(都内7番目に多い自治体)、令和2年4月1日時点 149人(都内4番目に多い自治体))
観光地・スポーツ施設等があるので、他地域から来てもらえるまち	

強み	弱み
----	----

その他・自由意見

- 良いところはたくさんあるが、「一言で言うとお〇〇」というものがあるとよい
- 調布スマートシティ協議会などを通じて、『調布は「〇〇のまち』というイメージ作りができると、仲間が集まってくると思う
- 観光やスポーツで人が集まる仕組みを作ることが重要
- ブランディングができると、夜間人口と昼間人口のバランスが良くなる
- 高齢者のデジタル化を推進していくと良いと思う
- 福井県鯖江市の「メガネのまち」のようなブランディングが必要
- 調布駅前広場という財産を活用すべき
- 味の素スタジアムと深大寺間の交通があるとよい
- 「映画のまち」は大きな資産だが、もう少しアピールできると思う。現時点では調布駅周辺にとどまっていて、市内他地域への広がりが課題だと思う
- 「ゼロカーボンシティ」は企業誘致にプラスになる(企業側からすると、進出する際の決め手になりうる)。再エネ100%のオフィスビルがあるとよい